



浜の話題

【6月18、25日】横浜、平塚：新組合長就任

6月18日に平塚市漁協で、25日に横浜市漁協で、それぞれ任期満了に伴う役員改選により新組合長が就任しました。平塚市漁協では、前組合長 田中邦男氏(日海丸)に代わり、新組合長として杉山武氏(丸八丸)が、横浜市漁協では、前組合長 黒川和彦氏(忠彦丸)に代わり、新組合長として野村隆宏氏(糸丸)がそれぞれ就任しました。

【7月1日】三浦半島アオリイカコミュニティ：結成検討会

7月1日、県横須賀三浦地域県政総合センターが「三浦半島アオリイカコミュニティ結成検討会」を開催し、「三浦半島アオリイカコミュニティ」を結成することになりました。同コミュニティは、地域の伐採木をアオリイカの産卵礁として活用する取り組み、成果のPR、藻場の再生への機運を半島内に広げていくことを目指し、三浦半島地区の漁業関係団体や造園業者などが連携・組織化していきます。また、令和6年春季のアオリイカ産卵礁設置状況について、及びアオリイカ産卵礁に利用できる粗朶(そだ)の供給について、それぞれ関係団体から報告がありました。今後も引き続き取り組みを進めていくとともに、併せてアオリイカ生産者をグループ化する展開についても検討を進めていくそうです。

議事終了後には、水産技術センター高村主任研究員から「神奈川県沿岸における藻場と磯根資源の現状」と題する講演もあり、参加者たちは熱心に聴き入っていました。

【7月2日】神奈川県小釣漁業連絡協議会：通常総会

7月2日、県内各地域の一本釣り漁業者団体で構成される神奈川県小釣漁業連絡協議会の総会が、県水産技術センターで開催されました。宮川均会長のあいさつに始まり、会議では、令和5年度事業・決算報告や令和6年度事業計画・予算の承認などが行われました。総会終了後には県水産技術センター職員2名から、「小釣の重要対象魚種の動向」、「黒潮流路変動による沖ノ山周辺の海況変化」の2題の話題提供が行われ、出席した漁業者からは今後の海況の動向や底魚漁模様について質問がありました。



会員団体の代表が集いました



海況に関する講演

【7月11日】小田原：ヒラメ種苗放流

7月11日、小田原市漁協、同刺網部会、(公財)相模湾水産振興事業団及び(公財)県栽培漁業協会は四者合同で、合計4万6千尾のヒラメ種苗(平均全長73mm)を地先漁場に放流しました。



種苗の測定



種苗放流の様子

【7月12日】岩：カジメ株設置

7月12日、岩漁協海士会は相模湾試験場から提供を受けたカジメロープを海底に設置しました。また、昨年度漁港内に設置した食害防止カジメ籠のメンテナンス作業を行いました。



設置するカジメロープを準備する様子



食害防止カジメ籠を洗浄する様子

【7月13日】小坪：アオリイカ、テレビ放映

7月13日、小坪漁協所属の漁業者の営む小型定置網で漁獲されるアオリイカがテレビ朝日「食彩の王国」で紹介されました。

番組ページ <https://www.tv-asahi.co.jp/syokusai/backnumber/0982/>

【7月15日】東京都港区：漁業就業支援フェア

7月15日、(一社)全国漁業就業者確保育成センター主催の漁業就業支援フェア2024が東京都港区の都立産業貿易センターで開催されました。全国の漁業関係者がブースを設け、来場者に地元漁業への就業案内をしていました。本県からは、湘南定置、二宮漁場、県漁業士会(小田原市漁協の漁業士)、福浦定置網、住吉漁業(全国遠洋かつお・まぐろ漁業者協会)、県・県漁連の7団体が出展しました。県漁業士会のブースでは、小田原地区の漁業士2名が来場者に小田原の漁業の説明を行いました。全体で174名の来場者があり、本県ブースでも漁業就業に対する熱い想いを語られる方が、多くみられました。出展した各定置網漁場では、フェア後、実際に定置網に乗船体験される方がおられ、今後の就業に繋がることが期待されます。



漁業就業希望者に説明する様子

【7月16日】長井：トコブシ、サザエ放流

7月16日、長井町漁協は(一財)横須賀西部水産振興事業団の支援を受けて、サザエ種苗を約26,000個、トコブシの種苗を10,000個放流しました。トコブシは、魚に捕食されないよう、潜水により放流しました。



浅い岩礁にサザエを放流



潜水によりトコブシを放流

【7月18日】西湘地区：マダイ種苗放流

7月18日、(公財)神奈川県栽培漁業協会と(公財)相模湾水産振興事業団は、小田原市漁協、岩漁協、真鶴町漁協及び福浦漁協立ち会いのもと、各浜地先で1万5千～2万6千尾のマダイ種苗を放流しました。

【7月23日】西湘地区：ヒラメ種苗放流

7月23日、大磯二宮漁協、岩漁協、真鶴町漁協は、(公財)相模湾水産振興事業団と合同で合計約36,600尾(大磯二宮 13,151尾、岩 10,460尾、真鶴町 13,000尾)のヒラメ種苗をそれぞれ地先漁場へ放流しました。また、同日に福浦漁協は 1,500尾のヒラメ種苗を地先漁場へ放流しました。放流したヒラメ種苗は、元気よく海底に向かって泳いでいきました。



各浜の種苗放流の様子

【7月29日】鎌倉、腰越：ヒラメ放流

7月29日、湘南漁協鎌倉支所及び腰越漁協は、(公財)相模湾水産振興事業団の支援により、ヒラメの種苗をそれぞれ5,000尾及び10,000尾放流しました。放流は、鎌倉では砂浜で、腰越では船と岸壁から行われました。



砂浜での放流(鎌倉)



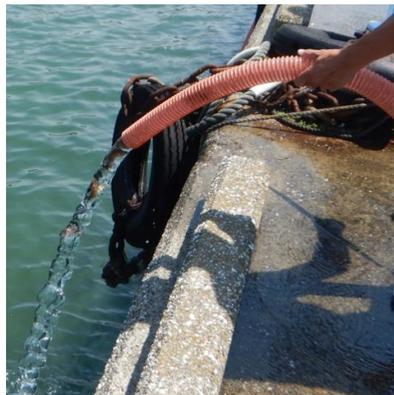
船からの放流(腰越)

【8月1日】葉山、腰越：マダイ放流

8月1日、(公財)神奈川県栽培漁業協会と(公財)相模湾水産振興事業団は、湘南漁協葉山支所及び腰越漁協立ち合いのもと、マダイの種苗それぞれ15,000尾及び18,000尾を地先岸壁で放流しました。



活魚車の中の種苗



岸壁からの放流(葉山)



岸壁からの放流(腰越)

【8月1、5日】長井：トラフグ放流

8月1日、当センターは、長井漁港において長井町漁協の立ち合いのもと、トラフグの種苗を約3,500尾放流しました。種苗は、同漁協の漁業者の協力により採捕された長井産の親魚から生産し、全長約80mmに大きく育成したものです。

8月5日、(一財)横須賀西部水産振興事業団が長井地先の小田和湾において同漁協の立ち合いのもと、トラフグの種苗を1万尾放流しました。



当センターで生産した種苗



小田和湾での放流

【8月4日】小田原みなとまつり

8月4日、第31回小田原みなとまつりが小田原漁港とその周辺で開催されました。その日の朝に水揚げされた新鮮な地魚を買うことができるイベントや、定置網漁業の見学等、大変盛況でした。



小田原みなとまつり正面入口



さわる水族館

お知らせ

ハマグリ、サザエ等を採らないでください

海水浴、磯遊び等で神奈川の海に来られる一般の方々は、ハマグリ・アワビ・サザエ等の貝類、イセエビ、タコ、ナマコ等共同漁業権の対象となっている水産動植物を採らないでください。これらを採ると漁業権侵害となる恐れがあります。ほとんどの海域で共同漁業権が設定されており、漁業者は生活の糧として、魚介類を大切に守り育てています。

県水産課

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/docs/yugyo/isoasobi.html>